



江戸時代の禅庭として充実した庭園

大通寺庭園



指定区分	県指定名勝
読みかた	だいつうじていえん
所在地	矢掛町小林
指定年月日	平成13年3月23日
解説	大通寺は、高峰山山頂に天平15年(743)、承天和尚が開山したとされ、鎌倉時代初期に後鳥羽院の勅願寺として山麓の現在地に移転した。大通寺庭園は、矢掛在住であった中西源兵衛によって寛政5年(1793)から文化10年(1813)にかけて築庭された。高峰山を借景に庭園のほぼ中央の築山が配される。山水図の墨絵を連想させ、江戸時代の禅庭として充実した庭園。現在、庭園は「書院の庭」「客寮の庭」「衆寮の庭」と三庭あり、それぞれ異なった趣を有している。
アクセス方法	井原鉄道矢掛駅から車5分
公開状況	開園:9~17時 / 休園:月曜(祝日の場合は開園) / 有料
設備	【P】普通車25台、バス5台 駐車場  トイレ 
備考	大通寺には、県指定重要文化財となっている平安時代の仏像(木造不空絹索観音菩薩坐像)(秘仏)がまつられています。6月には苔の緑、11月20日頃には紅葉が見ごろです。

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定名勝
ぶんかざいめい (文化財名)	大通寺庭園
よみかた	だいつうじていえん
しょざいち (所在地)	矢掛町小林
していたひ (指定した日)	平成13年3月23日
せつめい	大通寺(だいつうじ)は、鎌倉時代(かまくらじだい)はじめごろに建(た)てられました。庭園(ていえん)は、矢掛にすんでいた中西源兵衛(なかにしげんべえ)によって、1793年から1813年にかけてつくられました。高峯山を背景(はいけい)にして、山や石などが配置(はいち)され、江戸時代(えどじだい)の庭園として、充実(じゅうじつ)したものとなっています。